

- 1.24.2.2 高カロリー輸液には、脂肪乳剤を加えない。408, 409, 410, 411 (ⅢB)
 - 1.24.3 調製後の保存方法
 - 1.24.3.1 高カロリー輸液製剤は、混合後 28 時間以内に投与が完了するように計画する。(ⅢA)
 - 1.24.3.2 高カロリー輸液製剤を保存する必要がある場合には無菌環境下で調製し、冷蔵庫保存をする。(ⅢA)
 - 1.25 CR-BSI
 - 1.25.1 CRBSI が疑われる場合の対処
 - 1.25.1.1 CR-BSI が疑われる場合は血液培養を行う。(ⅢA)
 - 1.25.1.2 他に感染源が考えられない場合にはカテーテルを抜去する。(ⅢA)
 - 1.25.1.3 カテーテル抜去時には、血液培養とともにカテーテルの先端培養を行う。(ⅢA)
 - 1.25.1.4 真菌が原因による場合には、眼科的診察を行う。412, 413, 414 (ⅢA)
 - 1.25.2 ガイドワイヤーでの入れ換え
 - 1.25.2.1 感染源が不明で、カテーテル敗血症を除外するためには、ガイドワイヤーを用いて入れ換える方が良い。415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425 (ⅡB)
 - 1.26 システムとしてのカテーテル管理
 - 1.26.1 中心静脈カテーテルのチームによる管理
 - 1.26.1.1 専門チームによるカテーテル管理を行う方が良い。426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434 (ⅡB)
 - 1.26.1.2 ICU では看護師-患者比を適正に保つ方が良い。435, 436 (ⅡB)
- 2 末梢静脈カテーテルの衛生管理
- 2.1 留置部位
 - 2.1.1 上肢の静脈を使用する方が良い。437 (ⅢB)
 - 2.2 カテーテルの選択
 - 2.2.1 カテーテルは、静脈炎予防のためには、可能な限り、細径のものを使用する方が良い。438, 439, 440 (ⅢB)
 - 2.3 末梢静脈カテーテルの留置期間
 - 2.3.1 静脈炎のリスクを減らすため、末梢静脈カテーテルは 96 時間以上留置しない方が良い。441, 442, 443, 444, 445, 446, 447 (ⅢB)
 - 2.4 交換頻度
 - 2.4.1 末梢静脈カテーテルの輸液ラインは、カテーテル入れ替え時に交換する方が良い。(ⅢB)
 - 2.5 カテーテルロック